

## EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2023年6月15日

これは米国農務省海外農業局のマドリッド事務所(スペイン)が作成した「柑橘類半期報告書」のエグゼクティブサマリー及びオレンジとオレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### 要約

2022/23年度のEUの柑橘類の生産量は、前年度比10%減の1,040万トンと予測される。柑橘類のこの予測生産量は、前回(柑橘類年次報告書)の推計値から0.7%減少した。

EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアはEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがそれに続く。公式データ及び業界筋の情報によると、EUの柑橘類生産量の減少は主にスペインで見られ、約18%減少して過去10年間で最低の水準になると予想される。スペイン産の柑橘類は、EUの生産量の約65%を占めている。柑橘類の生産量の減少は、イタリア(主にオレンジ)とポルトガルでも予測される。一方、ギリシャは、2022/23年度には昨年度からの回復が期待される。スペインで予想される大幅な減少は、2022年の春の雨が開花と着果に悪影響を及ぼしたことと、異常に暖かい夏とその後2023年5月まで続いた干ばつによるものである。これらの好ましくない気象条件は、オレンジとレモンをはじめとする柑橘類の生産を著しく損なった。

昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻は、エネルギー(燃料や電気)などの投入コストの増加を引き起こし、肥料は入手が困難になり価格が上昇した。柑橘類の販売額は、農業投入資材の価格上昇と同様には増加せず、柑橘類の生産者及び事業者の収益性の低下につながった。農業投入コストの上昇、経済的生産性の欠如、及び農業労働力の不足は、EU全体の柑橘類生産者にとって依然として懸念事項である。

海外農業局EU内各事務所の予測によると、地中海沿岸の生産国で耕種作物より収益性の高い果樹の植栽が続くため、EUの柑橘類栽培面積は前回の予測どおりに増加すると予想される。レモンとグレープフルーツの面積は、2022/23年度に大幅に増加すると予想される。EUのオレンジ栽培面積も緩やかに増加すると予想されるが、EUのマンダリン栽培面積はわずかに減少すると予想される。柑橘類の栽培面積拡大はスペインに集中しており、イタリア、ポルトガル、ギリシャの栽培面積はそれよりも安定している。

2022/23年度には、EUの柑橘類の収穫量の減少、柑橘類の価格の全体的な上昇、EUの食品インフレの増大、及び消費者が価格に敏感なことから、EUの柑橘類の消費量は、前回の予測どおり減少すると予想される。

EU全体としては柑橘類の純輸入者である。トレードデータモニター(TDM)社のデータによると、2021/22年度のEUのEU域外からの柑橘類の総輸入量は、前年度に比べ5%減少した。2022年10月から2023年3月までのEUの柑橘類輸入量は、主にオレンジ生産量の不足により、2022年の同時期と比較して6%増加した。EUへの主な柑橘類輸出国は、南アフリカ、トルコ、エジプト、モロッコ、アルゼンチン、ブラジルであり、主にEUの北部及び東部の諸国に柑橘類を出荷している。2022/23年度の上半期には、トルコとモロッコからEUへの柑橘類の輸入量は減少したが、南アフリカとエジプトからの輸入量は増加した。EUの柑橘類の輸出货量に関しては、2021/22年度には前年度よりも6%少なかった。同様に、2022/23年度上半期のEUの柑橘類輸出货量は、供給と需要が減少し、ロシアのウクライナ侵攻後の貿易の流れの変化によって競争が激化したため、前年度の同時期に比べて3%減少した。EUの柑橘類の主な輸出先は、英国、スイス、ノルウェー、カナダである。

スペインは、EUの代表的な柑橘類生産国であり、他のEU加盟国への主要な柑橘類供給国でもある。スペインは、世界最大級の柑橘類の生産国及び輸出国の1つである。2021/22年度のスペインの柑橘類の輸出货量は370万トンで、主にオレンジ、マンダリン、レモンであった。スペインの柑橘類の主な輸出先は他のEU加盟国である。

## <オレンジ>

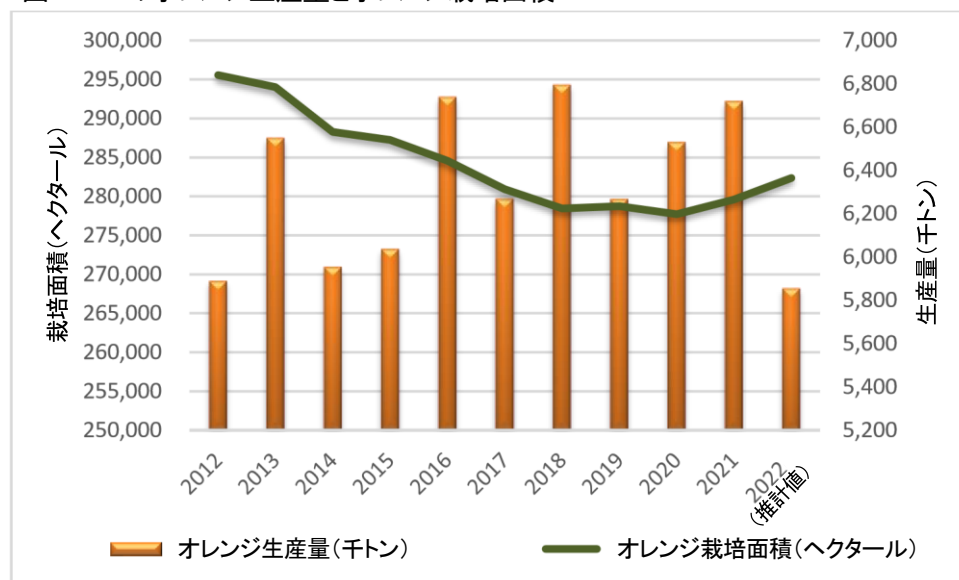
表1 EUの生鮮オレンジ生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 欧州連合(EU)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	277,864	277,714	279,620	279,596	282,145	282,348
収穫面積(ヘクタール)	259,164	259,164	257,780	260,935	262,779	263,043
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	6,540	6,531	6,720	6,720	5,854	5,856
輸入量(千トン)	858	859	740	734	835	835
総供給量(千トン)	7,398	7,390	7,460	7,454	6,689	6,691
輸出量(千トン)	410	410	403	403	390	390
生鮮域内消費量(千トン)	5,992	5,954	5,947	6,009	5,640	5,470
加工仕向量(千トン)	996	1,026	1,110	1,042	659	831
総仕向量(千トン)	7,398	7,390	7,460	7,454	6,689	6,691

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

図1 EUのオレンジ生産量とオレンジ栽培面積 2012-2022



出典：海外農業局EU各事務所

## 生産

EUのオレンジ生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアは、EUのオレンジ総生産量のそれぞれ約55%と約25%を占めている。残りの20%は、ギリシャやポルトガルなどの他の加盟国によるものである。

2022/23年度のEUのオレンジの生産量は、約580万トンと予想され、前年度と比較して約13%減少し、前回の推計値と変わらない(図1参照)。生産量の減少は、スペインで予想される減少によって主に説明され、イタリアとポルトガルでもわずかに減少する。

スペイン政府の公式データによると、2022/23年度のオレンジ生産量は22.8%減の2,895万トンと予測される。スペインのオレンジは、開花から着果までの時期の気象条件の悪さによって柑橘類の中で最も深刻な影響を受けた。公式データによると、スペインの主要産地であるバレンシア州とアンダルシア州では、2022年春の開花から着果までの時期の過剰な降雨や肥大期の異常な高温、干ばつ、灌漑割り当て水量の制限といった極端に悪い天候条件にさらされ、予想される収穫量は過去5年間の平均に比べ約20%減少した。

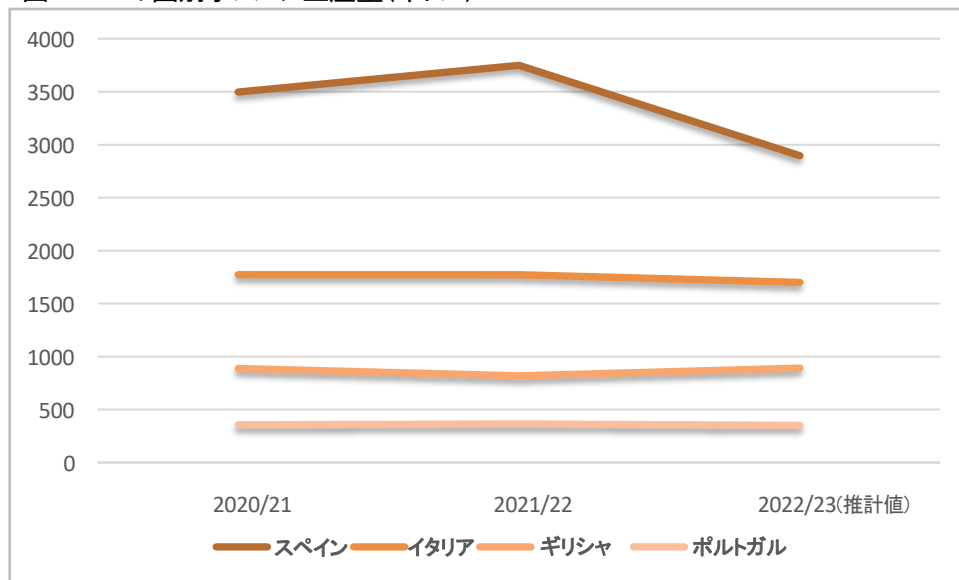
数年連続の経済の減速により、柑橘類生産者は次第にオレンジから収益性のより高い品目に切り替えているが、スペインではオレンジ栽培面積が2018年以降着実に回復して2022年には約14万3千ヘクタールに達しており、持続可能な栽培慣行、スペインのオレンジ園の生産性、及び効率的で高性能な品種の使用により、スペインはEUでトップのオレンジ生産国及び輸出国としての地位を維持している。

スペインのオレンジ生産の約90%を占めるバレンシア州とアンダルシア州が、主要なオレンジ産地である。スペインの生産者は、果実の入手可能性を高めるために早生品種と晩生品種の両方を栽培することにより、年間を通して市場に供給しようとしている。スペインで栽培されている主要なオレンジ品種は、ナベリーナ(Navelina)、ネーブル(Navel)、ナベラーテ(Navelate)、サルスティアーナ(Salustiana)、バレンシア(Valencia)及びサンギネッロ(Sanguinello)である。

イタリアは、スペインに次ぐヨーロッパ第2のオレンジ生産国である。シチリア島とカラブリア州がオレンジの主産地であり、それぞれ総生産量の約63%と約19%を占めている。タロッコ(Tarocco)、モロ(Moro)、サンギネッロ(Sanguinello)、ナベリーナ(Navelina)、バレンシア(Valencia)が主要品種である。さらに、栽培品種 IPPOLITO(イッポリト)と MELI(メリ)の人気の高まっている。

イタリアの2022/23年度のオレンジ生産量は、シチリア島の干ばつが主に果肉の黄色い品種と晩生品種に影響を与えたため、前回の推計値同様、前年度に比べて微減の170万トンと予想される。

図2 EUの国別オレンジ生産量(千トン)



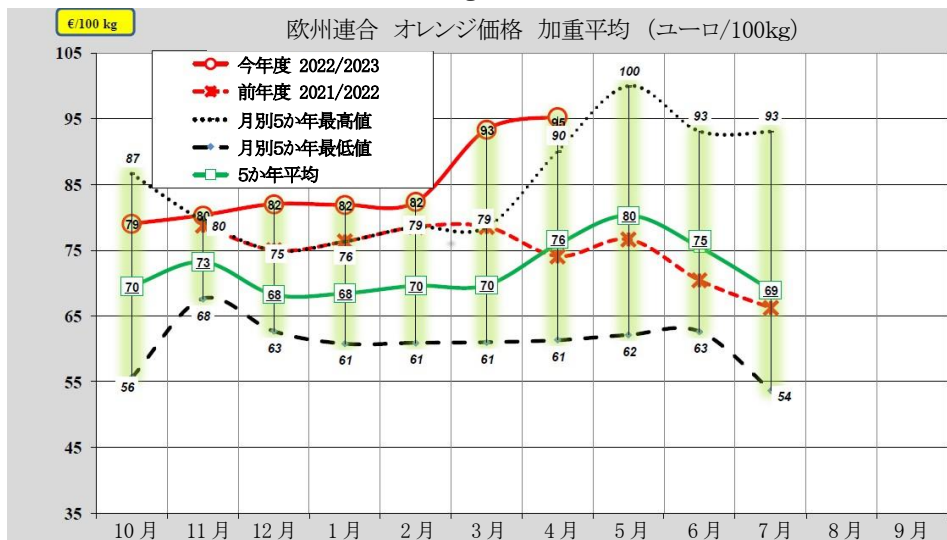
出典: 海外農業局EU各事務所

ギリシャの2022/23年度のオレンジ生産量は、ほとんどの品種で通常の着果が見られたことにより、前年度と比べて約9%増加すると予想される。ペロポネソス半島とエトロカルニア県(西ギリシャ地方)が主要なオレンジ産地である。ギリシャで栽培される主要品種は、ワシントンネーブル(Washington Navel)、コモنز(Commons)、スカッグスボナンザ(Skaggs Bonanza)、ナベリーナ(Navelina)、ニューホール(New Hall)、レーンレート(Lanelate)、バレンシア(Valencia)である。バレンシア種の収穫は現在、在庫量が多いこととエネルギーコストが高いことから、前年に比べて遅れている。

これとは逆に、公式データによる2022/23年度のポルトガルの生産量は、悪天候と極端な干ばつにより、前シーズンと比較してわずかに減少すると予想される。しかしながら、ポルトガルは過去10年間に、より効率的で灌漑が整備された園地でのオレンジ生産を増やしてきた。ポルトガルのオレンジ生産量の75%は、南部のアルガルヴェ地方のものである。

EU柑橘類ダッシュボード(統計チャート集)によると、2022/23年度は、国内供給の減少に後押しされて、EUにおけるオレンジの平均価格が過去5年間の平均よりも高い状態で始まった(図3参照)。2023年4月には、EUにおけるオレンジの価格は95ユーロ/100kgで、過去5年間の平均に対し125%であった。全体として、EUのオレンジ生産者は価格を引き上げた。2023年4月のスペインのオレンジ価格は過去の平均の134%に当たる89ユーロ/100kgとなり、イタリアのオレンジ価格も127%に当たる132ユーロ/100kgとなった。

図3 EUのオレンジ価格(ユーロ/100kg) 2022/23年度



出典：欧州委員会 農業・農村開発総局 柑橘類ダッシュボード

## 消費

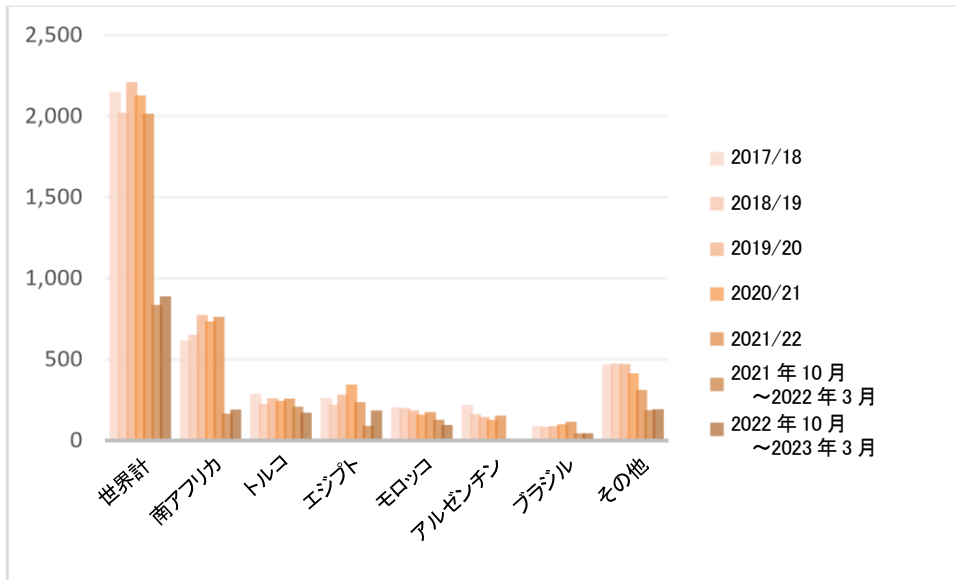
2022/23年度の生鮮オレンジの消費量は、EU域内の収穫量が少なく、オレンジ価格が高く、消費者が価格に敏感なため、前回の予測と同様に、前年度実績及び前回より前の推定値と比較して減少すると予想される。EUでは、EU産オレンジの約85%が生鮮果実として消費される。オレンジの農場売渡価格の上昇により、2022/23年度は加工用に仕向けられる果実が減少した。

## 貿易

2022/23年度にはEUのオレンジ生産量が大幅に減少したため、EUのオレンジ輸入量は前年度の水準と比較して増加すると予想される(図4参照)。EUへの主要なオレンジ供給国はスペインであることに留意することが重要である。EU域外の主な輸入先国は、南アフリカ(特にオフシーズン中)、エジプト、モロッコ、ジンバブエ、アルゼンチン等である。アルゼンチンは、2019/20年度にカンキツ黒星病(CBS)が検出されたためEU市場から締め出されたが、2021年5月1日以降は生鮮レモン及びオレンジを再びEUに輸出する資格がある。2022年7月14日以降、フォールスコドリグモス(*Thaumatotibia leucotreta*)の影響を受けている国からEUへのオレンジの輸入には、予冷及び輸送中の低温処理が必要となる。

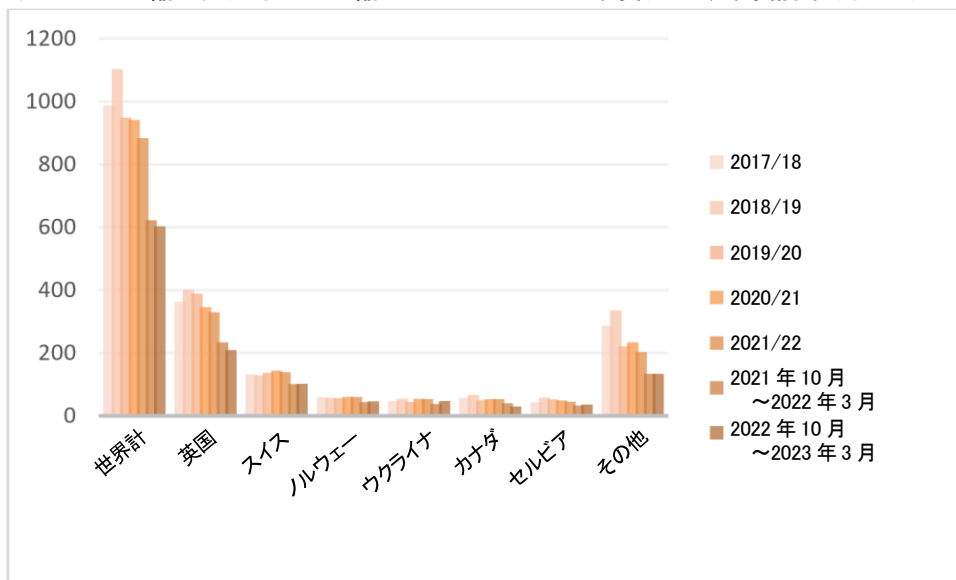
2022/23年度のEUのオレンジ輸出量は、オレンジ生産量の不足によりわずかに減少すると予想される。スペイン産を主体とするEU産オレンジの主な輸出先は、英国、スイス、カナダ、ノルウェー、セルビア、中東諸国等である(図5参照)。

図4 EUの輸入先別オレンジ輸入量 2017~2022 年度及び今年度前半(千トン)



出典: 海外農業局マドリッド事務所(Trade Data Monitor, LLC のデータに基づく)

図5 EUの輸出先別オレンジ輸出量 2017~2022 年度及び今年度前半(千トン)



出典: 海外農業局マドリッド事務所(Trade Data Monitor, LLC のデータに基づく)

## <オレンジ果汁>

表2 EUのオレンジ果汁(ブリックス 65)生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 欧州連合(EU)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	1,029,000	1,026,000	1,116,000	1,042,000	709,000	831,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
製造量(トン)	79,538	79,538	77,522	80,778	54,963	64,421
輸入量(トン)	637,366	637,409	569,057	566,664	570,000	560,000
総供給量(トン)	731,904	731,947	661,579	662,442	639,963	639,421
輸出量(トン)	132,127	132,086	111,765	111,860	82,000	90,000
域内消費量(トン)	584,777	584,861	534,814	535,582	542,963	534,421
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
総仕向け量(トン)	731,904	731,947	661,579	662,442	639,963	639,421

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

### 製造

2022/23年度のEUのオレンジ果汁製造量は、6万4,421トンと予測され、これは前回の予測を上回るものの、前年度を20%下回る。加工用に仕向けられるオレンジの量は、オレンジの全体的な生産量と、国内外の生鮮市場向け果実の品質とサイズによって変動する。EUのオレンジ加工産業は、EU産オレンジの需給バランスを安定させる上で重要な役割を果たしている。EUのオレンジ生産量の大幅な減少が予想されることと、生産者が生鮮オレンジの販売から得る価格が良いことを考えると、加工仕向量は減少すると予想される。

スペインはEUにおける主要なオレンジ加工国であり、イタリアがそれに続く。スペイン産オレンジの生産量の約20%が加工用に仕向けられ、主体である生鮮オレンジ果汁のほか、他の重要な柑橘類副産物の製造に使用される。さらに、スペインの大手柑橘類加工業者らは持続可能な対策を実施し、消費者の新しい需要に対応している。持続可能な包装の使用もEUの重要な傾向である。

### 消費

EUの2022/23年度のオレンジ果汁の消費量は、食品価格のインフレ率の高さ、価格に敏感な消費者、代替飲料や他の果汁飲料との競争の激化を考えると、昨年度と比較してわずかに減少すると予想される。EUのオレンジ果汁製造量は約53万5千トンで、国内のオレンジ果汁需要の約15%しか満たしていない。

### 貿易

EUは、主に域内需要を満たすためのオレンジ果汁の純輸入者である。EUのオレンジ果汁の輸入先は主としてブラジルであり、2021/22年度の同国からの輸入量は56万6,664トンでEUの総輸入量の90%を占めた。2022/23年度の上半期には、EUのオレンジ果汁の輸入量は7%減少した。2022/23年度にはEU域内のオレンジ消費量の減少が予想されるため、EUのオレンジ果汁輸入量は昨年度と比較してわずかに減少すると予想される。EUへの他の供給国は、メキシコ、南アフリカ、アルゼンチン、エジプト等である。2021年春に米国のオレンジ果汁に対するEUの関税が撤廃されたにもかかわらず、米国は2018年以前のEUへの輸出レベルを回復していない。

英国はEU産オレンジ果汁の突出して最大の輸出先である。2022/23年度には、EU産オレンジ果汁の輸出量は、EU域内のオレンジ生産量の減少に伴いわずかに減少すると予想される。

<タンジェリン/マンダリン>

表3 EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	152,102	152,102	149,975	150,197	150,758	149,476
収穫面積(ヘクタール)	140,575	140,575	136,652	137,950	138,576	137,546
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	3,243	3,245	3,155	3,158	3,013	3,035
輸入量(千トン)	423	423	432	430	410	410
総供給量(千トン)	3,666	3,668	3,587	3,588	3,423	3,445
輸出量(千トン)	350	350	322	322	300	300
生鮮域内消費量(千トン)		3,051	3,041	3,016	3,018	2,990
加工仕向量(千トン)	257	277	249	248	133	240
総仕向量(千トン)	3,658	3,668	3,587	3,588	3,423	3,445

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

<レモン/ライム>

表4 EUのレモン/ライム生産需給統計

レモン/ライム(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	83,978	83,998	86,464	85,164	88,631	86,442
収穫面積(ヘクタール)	71,844	72,844	74,201	74,209	76,496	76,333
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	1,731	1,733	1,629	1,630	1,567	1,474
輸入量(千トン)	551	551	629	628	560	560
総供給量(千トン)	2,282	2,284	2,258	2,258	2,127	2,034
輸出量(千トン)	155	155	142	142	140	140
生鮮域内消費量(千トン)	1,734	1,837	1,741	1,829	1,731	1,642
加工仕向量(千トン)	393	292	375	287	256	252
総仕向量(千トン)	2,282	2,284	2,258	2,258	2,127	2,034

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

<グレープフルーツ>

表5 EUのグレープフルーツ生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積(ヘクタール)	3,598	3,598	3,799	3,791	3,892	3,960
収穫面積(ヘクタール)	3,120	3,120	3,191	3,191	3,260	3,344
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	106	106	111	106	109	99
輸入量(千トン)	295	295	223	223	215	215
総供給量(千トン)	401	401	334	329	324	314
輸出量(千トン)	26	26	17	17	15	15
生鮮域内消費量(千トン)	362	362	299	299	297	288
加工仕向量(千トン)	13	13	18	13	12	11
総仕向量(千トン)	401	401	334	329	324	314

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所